

前回（第5回WG）の振り返り について

令和4年3月2日
内閣府 地方創生推進事務局

都市再生緊急整備地域における評価手法の改定、およびデータ活用トライアルの内容とトライアルの観点として設定する指標（KPI）のあり方についてご議論頂いた。

○評価手法の改定について

- ・評価手法の改定の方向性については概ね了解した。
- ・波及効果を測る時には、単純に対象地域と周辺地域を数字で表すのではなく、問題意識と関連付けて評価するのがよいのではないか。
- ・モニタリング結果の報告を1年に1度という頻度にするのであれば、トライアルを踏まえ、より手間や費用がかからない指標や手法も考えていく必要があるのではないか。

○KPIの設定のあり方について

- ・KPIは、第1階層・第2階層に分けて整理するのはどうか。そのうえで、比較的行政でのチェックがしやすい第1階層（アウトプット）については迅速さを求め、政策目標などで抽象的な表現になりやすい第2階層（アウトカム）については代替指標を用いることを検討するのはどうか。また、KPIの設定においては、継続性と有効性が重要であるので、上記の枠組みで整理した上で、個別データの入替えや代替をダッシュボードに載せていくようなエコシステムを作ることができるとよいのではないか。
- ・ガードレール指標は後々整理されるべきものだが、自治体の状況によって設定の仕方が異なるだろう。KPIに共通部分があったとしても、各自治体の目標に合わせたガードレール指標の設定を考えていく必要があるのではないか。

○データ活用トライアルについて

- ・ストックベースの話とフローベースの話がもっと整理されるとよい。建築確認申請等のフローを測ることで、新規投入量とその効果がどうなったかという感度分析的なことを今後検討していくのもよいのではないか。
- ・人流データについては、サンプリングバイアスがあることを前提に結果の表示・集計の仕方を考える必要がある。同時に、イケ・サンパークにおける週末の人の増加のように、イベント活動が人流に影響を与えていることは見落とさない方がよいだろう。
- ・データ取得にあたっては、各自治体が費用を支払うのであれば、都市再生に限らず、より幅広いデータ活用の方法を提示すべきではないか。そうしなければ、自治体の中で活用可能性が低いと判断され、継続性が失われやすいのではないか。
- ・環境不動産については、絶対量だけでなく新規供給量に占める割合等を示すなど、集計の仕方に工夫が必要である。